

2015年
4月

「市民につめたい維新」の吹田から

くらしを守る「福祉の吹田」へ



吹田の維新市政の最大の特徴は、市民につめたいこと。
維新市政は、議会を軽視し市民不在のまま、維新プロジェクトによって、市民に痛みと負担をおしつけてきました。削られた福祉施策は、市民と行政がともに築いてきた財産です。「改革は道半ば」という維新市長による「福祉の吹田」の後退はもう許せません。

一方的な民営化計画はNO!

「子育てするなら吹田」を守れ

市内全域に子育てネットワークがあるから、吹田市は「子育てがしやすい」と高く評価されてきました。公立保育園民営化計画に反対する地域の運動は広がり、計画を中断に追い込みました。待機児解消につながる実効的な手立てこそが保護者の願いです。「子育てするなら吹田」を守りましょう。

大企業重視ではなく

商売がつづけられるまち、吹田に

維新市政は、「地元経済の維新」で企業誘致をにかけていますが、吹田市は新規の開業率が高い一方で、大企業の市外移転や廃業率の高さが目立ちます。増税による消費の冷え込みで体力を奪われ、後継者づくりに悩む市内の商工業者を励ます、地域経済の底上げ、活性化を図る施策の充実が必要です。

疑惑を持ち込む市長はいらない

「清潔・公正」な市政を

維新市長に対して、市議会は2度の問責決議を全会一致で可決しました。度重なる「政治とカネ」問題、太陽光パネル疑惑に対する無反省な姿勢が問題になりました。市民につめたい一方で、自分には甘い維新市長の政治姿勢は市民の信頼を大きく裏切っています。「清潔・公正」な市政をのぞむ声は市民の総意です。

吹田明るい会が提案

市民の願いにこたえ、 市民のくらしを守る そのために全力をつくす 市政をつくりましょう

吹田明るい会は、市民につめたい維新市政から、くらしを守る市政への転換をめざして、市民のみなさんに共同の運動をよびかけます。

- 市民につめたい「行政の維新プロジェクト」の中止
- 「福祉の吹田」「子育てするなら吹田」を守ります
- 営業とくらし、雇用を守り、地元業者が元気な吹田に
- 「清潔・公正」の市政を実現

地方自治をこわす 「大阪都」構想はお断り!

橋下・維新の会によって、大阪府・市議会が否決した「大阪都」構想の「協定書」が、「住民投票」にかけられようとしています。議会での議論を無視し、「大阪市をつぶす」という重大事の賛否を住民投票に丸投げし、その結果を住民に責任転嫁するアンフェアなやり方です。

吹田は「特別自治区」になる? 吹田市を「抱き込む」

橋下大阪市長 無批判に「賛成」現吹田市長

橋下大阪市長は、「大阪都」構想の第二段階で、吹田市、豊中市などの隣接市を再編して特別自治区とする*ことを明らかにしていますが、現吹田市長は「大阪都」構想に、「一貫して賛成」(2014年3月市議会)と、無批判な態度です。

「大阪都」に抱き込まれてしまうと、吹田市は消滅し権限も財源も奪われ、吹田市独自の施策はできなくなります。身近な自治体を市民から奪う「大阪都」構想はいりません。

※「図解大阪維新」大阪維新の会(著)より

国にもキッパリ「モノ言う」 自治体が求められています

所得の低い層ほど苦しめる 消費税再引き上げにNO!

昨年4月の消費税の8%への増税で低所得者層ほど苦しめられています。年間収入377万円の世帯の負担割合が6.11%なのに対して、年間収入1,183万円の世帯は3.06%*。増税は家計を直撃し、消費の落ち込みは地域経済にも打撃を与えています。

市民生活や地元商工業者を守るために「10%への再増税反対」と国にモノいう自治体が必要です。

※総務省「家計調査月報」より